君津中央病院を受診された患者さまへ

当院では下記の臨床研究を実施しております。

この研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用又は提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

田本国内の脳神経血管内治療に関する登録研究 4 (倫理委員会承認番号:504) 当院の研究責任者 (所属) 他の研究機関及び 神戸市立医療センター中央市民病院 脳神経外科 坂井信幸 医療イノベーション推進センター 河野健一 日本における血管内治療(カテーテルインターベンション)の実施 状況を把握し、治療成績の評価および治療成績に影響を与える因子の 探索を通じ、標準的治療と術者教育の指針を確立するために、2015 年から 2019 年に我が国で脳神経血管内治療を施行された症例を登録し、治療 30 日後の日常生活自立度(modified Rankin Scale)を主要エンドボイント、治療の技術的成功(Technical Success)、治療 30 日以内における有害事象の発生、術後 30 日以内における治療に関連した治療合併症(Complication)の発生を副次エンドボイントとして治療成績を評価する。また、これまで行ってきた 2005 年から 2014 年までのデータを比較すること、多施設共同臨床研究とデータ管理システムの基盤を確立することも本研究の目的である。 別査データの 該当期間 以下の全ての条件を満たす対象を選択する。 1) 2015 年 1 月 1 日から 2019 年 12 月 31 日に脳神経血管内治療が能行された患者 2) 日本脳神経血管内治療学会専門医(指導医を含む)が治療に関与 (術者、助手、指導)した患者		
当院の研究責任者 (所属) 早坂典洋(脳神経外科) 早坂典洋(脳神経外科) 特別市立医療センター中央市民病院 脳神経外科 坂井信幸 医療イノベーション推進センター 河野健一 日本における血管内治療 (カテーテルインターベンション) の実施 状況を把握し、治療成績の評価および治療成績に影響を与える因子の 探索を通じ、標準的治療と術者教育の指針を確立するために、2015 年から 2019 年に我が国で脳神経血管内治療を施行された症例を登録し、治療 30 日後の日常生活自立度 (modified Rankin Scale) を主要エンドポイント、治療の技術的成功 (Technical Success) 、治療 30 日以内における有害事象の発生、術後 30 日以内における治療に関連した治療合併症 (Complication) の発生を副次エンドボイントとして治療成績を評価する。また、これまで行ってきた 2005 年から 2014 年までのデータを比較すること、多施設共同臨床研究とデータ管理システムの基盤を確立することも本研究の目的である。 2015年1月1日から 2019年12月31日 以下の全ての条件を満たす対象を選択する。 1) 2015年1月1日から 2019年12月31日に脳神経血管内治療が施行された患者 2) 日本脳神経血管内治療学会専門医 (指導医を含む) が治療に関与	研究課題名	
(所属) 中の研究機関及び 神戸市立医療センター中央市民病院 脳神経外科 坂井信幸 医療イノベーション推進センター 河野健一 日本における血管内治療 (カテーテルインターベンション) の実施 状況を把握し、治療成績の評価および治療成績に影響を与える因子の 探索を通じ、標準的治療と術者教育の指針を確立するために、2015 年から 2019 年に我が国で脳神経血管内治療を施行された症例を登録し、治療 30 日後の日常生活自立度 (modified Rankin Scale)を主要エンドボイント、治療の技術的成功 (Technical Success)、治療 30 日以内における有害事象の発生、術後 30 日以内における治療に関連した治療合併症 (Complication)の発生を副次エンドポイントとして治療成績を評価する。また、これまで行ってきた 2005 年から 2014 年までのデータを比較すること、多施設共同臨床研究とデータ管理システムの基盤を確立することも本研究の目的である。 調査データの 該当期間 以下の全ての条件を満たす対象を選択する。 1) 2015年1月1日から 2019年12月31日に脳神経血管内治療が施行された患者 2) 日本脳神経血管内治療学会専門医 (指導医を含む)が治療に関与		(偏埋会貝気承認番号:504)
(所属) 他の研究機関及び 神戸市立医療センター中央市民病院 脳神経外科 坂井信幸 医療イノベーション推進センター 河野健一 日本における血管内治療(カテーテルインターベンション)の実施 状況を把握し、治療成績の評価および治療成績に影響を与える因子の 探索を通じ、標準的治療と術者教育の指針を確立するために、2015 年から 2019 年に我が国で脳神経血管内治療を施行された症例を登録し、治療 30 日後の日常生活自立度 (modified Rankin Scale)を 主要エンドポイント、治療の技術的成功 (Technical Success)、治療 30 日以内における有害事象の発生、術後 30 日以内における治療に関連した治療合併症 (Complication)の発生を副次エンドボイントとして治療成績を評価する。また、これまで行ってきた 2005 年から 2014 年までのデータを比較すること、多施設共同臨床研究とデータ管理システムの基盤を確立することも本研究の目的である。 調査データの 該当期間 以下の全ての条件を満たす対象を選択する。 1) 2015 年 1 月 1 日から 2019 年 1 2 月 3 1 日に脳神経血管内治療が施行された患者 2) 日本脳神経血管内治療学会専門医(指導医を含む)が治療に関与	当院の研究責任者	日指曲洋(脳神経外科)
日本における血管内治療(カテーテルインターベンション)の実施 状況を把握し、治療成績の評価および治療成績に影響を与える因子の 探索を通じ、標準的治療と術者教育の指針を確立するために、2015 年から 2019 年に我が国で脳神経血管内治療を施行された症例を登録し、治療 30 日後の日常生活自立度 (modified Rankin Scale)を主要エンドボイント、治療の技術的成功 (Technical Success)、治療 30 日以内における有害事象の発生、術後 30 日以内における治療に関連した治療合併症 (Complication)の発生を副次エンドボイントとして治療成績を評価する。また、これまで行ってきた 2005 年から 2014 年までのデータを比較すること、多施設共同臨床研究とデータ管理システムの基盤を確立することも本研究の目的である。 2015年1月1日から 2019年12月31日 以下の全ての条件を満たす対象を選択する。 1)2015年1月1日から 2019年12月31日に脳神経血管内治療が施行された患者 2)日本脳神経血管内治療学会専門医(指導医を含む)が治療に関与	(所属)	十次大学八十(10回1年加生)17月7)
日本における血管内治療(カテーテルインターベンション)の実施 状況を把握し、治療成績の評価および治療成績に影響を与える因子の 探索を通じ、標準的治療と術者教育の指針を確立するために、2015 年から 2019 年に我が国で脳神経血管内治療を施行された症例を登録し、治療30日後の日常生活自立度 (modified Rankin Scale)を主要エンドポイント、治療の技術的成功 (Technical Success)、治療30日以内における有害事象の発生、術後30日以内における治療に関連した治療合併症 (Complication)の発生を副次エンドポイントとして治療成績を評価する。また、これまで行ってきた2005年から2014年までのデータを比較すること、多施設共同臨床研究とデータ管理システムの基盤を確立することも本研究の目的である。とデータ管理システムの基盤を確立することも本研究の目的である。2015年1月1日から2019年12月31日以下の全ての条件を満たす対象を選択する。1)2015年1月1日から2019年12月31日に脳神経血管内治療が施行された患者2)日本脳神経血管内治療学会専門医(指導医を含む)が治療に関与	他の研究機関及び	神戸市立医療センター中央市民病院 脳神経外科 坂井信幸
状況を把握し、治療成績の評価および治療成績に影響を与える因子の探索を通じ、標準的治療と術者教育の指針を確立するために、2015年から 2019年に我が国で脳神経血管内治療を施行された症例を登録し、治療30日後の日常生活自立度(modified Rankin Scale)を主要エンドポイント、治療の技術的成功(Technical Success)、治療30日以内における有害事象の発生、術後30日以内における治療に関連した治療合併症(Complication)の発生を副次エンドポイントとして治療成績を評価する。また、これまで行ってきた2005年から2014年までのデータを比較すること、多施設共同臨床研究とデータ管理システムの基盤を確立することも本研究の目的である。とデータ管理システムの基盤を確立することも本研究の目的である。2015年1月1日から2019年12月31日以下の全ての条件を満たす対象を選択する。1)2015年1月1日から2019年12月31日に脳神経血管内治療が施行された患者2)日本脳神経血管内治療学会専門医(指導医を含む)が治療に関与	各施設の研究責任者	医療イノベーション推進センター 河野健一
探索を通じ、標準的治療と術者教育の指針を確立するために、2015年から 2019年に我が国で脳神経血管内治療を施行された症例を登録し、治療30日後の日常生活自立度(modified Rankin Scale)を主要エンドボイント、治療の技術的成功(Technical Success)、治療30日以内における有害事象の発生、術後30日以内における治療に関連した治療合併症(Complication)の発生を副次エンドボイントとして治療成績を評価する。また、これまで行ってきた2005年から2014年までのデータを比較すること、多施設共同臨床研究とデータ管理システムの基盤を確立することも本研究の目的である。とデータ管理システムの基盤を確立することも本研究の目的である。2015年1月1日から2019年12月31日以下の全ての条件を満たす対象を選択する。1)2015年1月1日から2019年12月31日に脳神経血管内治療が施行された患者2)日本脳神経血管内治療学会専門医(指導医を含む)が治療に関与	本研究の目的	日本における血管内治療(カテーテルインターベンション)の実施
年から 2019 年に我が国で脳神経血管内治療を施行された症例を登録し、治療 30 日後の日常生活自立度(modified Rankin Scale)を主要エンドポイント、治療の技術的成功(Technical Success)、治療 30 日以内における有害事象の発生、術後 30 日以内における治療に関連した治療合併症(Complication)の発生を副次エンドポイントとして治療成績を評価する。また、これまで行ってきた 2005年から 2014年までのデータを比較すること、多施設共同臨床研究とデータ管理システムの基盤を確立することも本研究の目的である。 2015年1月1日から 2019年12月31日 以下の全ての条件を満たす対象を選択する。 1) 2015年1月1日から 2019年12月31日に脳神経血管内治療が施行された患者 2) 日本脳神経血管内治療学会専門医(指導医を含む)が治療に関与		状況を把握し、治療成績の評価および治療成績に影響を与える因子の
録し、治療30日後の日常生活自立度(modified Rankin Scale)を主要エンドポイント、治療の技術的成功(Technical Success)、治療30日以内における有害事象の発生、術後30日以内における治療に関連した治療合併症(Complication)の発生を副次エンドポイントとして治療成績を評価する。また、これまで行ってきた2005年から2014年までのデータを比較すること、多施設共同臨床研究とデータ管理システムの基盤を確立することも本研究の目的である。 調査データの該当期間 以下の全ての条件を満たす対象を選択する。 1)2015年1月1日から2019年12月31日 以下の全ての条件を満たす対象を選択する。 1)2015年1月1日から2019年12月31日に脳神経血管内治療が施行された患者 2)日本脳神経血管内治療学会専門医(指導医を含む)が治療に関与		探索を通じ、標準的治療と術者教育の指針を確立するために、2015
本研究の目的 主要エンドポイント、治療の技術的成功(Technical Success)、治療30日以内における有害事象の発生、術後30日以内における治療に関連した治療合併症(Complication)の発生を副次エンドポイントとして治療成績を評価する。また、これまで行ってきた2005年から2014年までのデータを比較すること、多施設共同臨床研究とデータ管理システムの基盤を確立することも本研究の目的である。 3015年1月1日から2019年12月31日 以下の全ての条件を満たす対象を選択する。 1)2015年1月1日から2019年12月31日に脳神経血管内治療が施行された患者 2)日本脳神経血管内治療学会専門医(指導医を含む)が治療に関与		年から 2019 年に我が国で脳神経血管内治療を施行された症例を登
治療 30 日以内における有害事象の発生、術後 30 日以内における治療に関連した治療合併症(Complication)の発生を副次エンドポイントとして治療成績を評価する。また、これまで行ってきた 2005年から 2014年までのデータを比較すること、多施設共同臨床研究とデータ管理システムの基盤を確立することも本研究の目的である。 30 日以下の全での手を選択することも本研究の目的である。 30 日以下の全での条件を満たす対象を選択する。 31 2015年1月1日から 2019年12月31日 以下の全ての条件を満たす対象を選択する。 32 2015年1月1日から 2019年12月31日に脳神経血管内治療が施行された患者 33 20 日本脳神経血管内治療学会専門医(指導医を含む)が治療に関与		録し、治療 30 日後の日常生活自立度(modified Rankin Scale)を
療に関連した治療合併症(Complication)の発生を副次エンドポイントとして治療成績を評価する。また、これまで行ってきた 2005年から 2014年までのデータを比較すること、多施設共同臨床研究とデータ管理システムの基盤を確立することも本研究の目的である。 2015年1月1日から2019年12月31日 以下の全ての条件を満たす対象を選択する。 1)2015年1月1日から2019年12月31日に脳神経血管内治療が施行された患者 2)日本脳神経血管内治療学会専門医(指導医を含む)が治療に関与		主要エンドポイント、治療の技術的成功(Technical Success)、
フトとして治療成績を評価する。また、これまで行ってきた 2005年から 2014年までのデータを比較すること、多施設共同臨床研究とデータ管理システムの基盤を確立することも本研究の目的である。 調査データの該当期間 2015年1月1日から2019年12月31日 以下の全ての条件を満たす対象を選択する。 1)2015年1月1日から2019年12月31日に脳神経血管内治療が施行された患者 2)日本脳神経血管内治療学会専門医(指導医を含む)が治療に関与		治療 30 日以内における有害事象の発生、術後 30 日以内における治
年から 2014 年までのデータを比較すること、多施設共同臨床研究とデータ管理システムの基盤を確立することも本研究の目的である。 調査データの		療に関連した治療合併症(Complication)の発生を副次エンドポイ
とデータ管理システムの基盤を確立することも本研究の目的である。 認当期間 2015年1月1日から2019年12月31日 以下の全ての条件を満たす対象を選択する。 1)2015年1月1日から2019年12月31日に脳神経血管内治療が施行された患者 (対象となる方) 2)日本脳神経血管内治療学会専門医(指導医を含む)が治療に関与		ントとして治療成績を評価する。また、これまで行ってきた 2005
調査データの 該当期間 2015年1月1日から2019年12月31日 以下の全ての条件を満たす対象を選択する。 1)2015年1月1日から2019年12月31日に脳神経血管内治療が施行された患者 (対象となる方) 2)日本脳神経血管内治療学会専門医(指導医を含む)が治療に関与		年から 2014 年までのデータを比較すること、多施設共同臨床研究
2015年1月1日から2019年12月31日 以下の全ての条件を満たす対象を選択する。		とデータ管理システムの基盤を確立することも本研究の目的である。
該当期間以下の全ての条件を満たす対象を選択する。研究の方法 (対象となる方)1) 2015年1月1日から2019年12月31日に脳神経血管内治療が施行された患者(対象となる方)寮が施行された患者2) 日本脳神経血管内治療学会専門医(指導医を含む)が治療に関与	調査データの	
 研究の方法 (対象となる方) (対象となる方)<	該当期間	2015年1月1日から2019年12月31日
研究の方法 療が施行された患者 (対象となる方) 2)日本脳神経血管内治療学会専門医(指導医を含む)が治療に関与		以下の全ての条件を満たす対象を選択する。
療が施行された患者 (対象となる方) 2)日本脳神経血管内治療学会専門医(指導医を含む)が治療に関与		1) 2015年1月1日から2019年12月31日に脳神経血管内治
2)日本脳神経血管内治療学会専門医(指導医を含む)が治療に関与		療が施行された患者
(術者、助手、指導)した患者		2)日本脳神経血管内治療学会専門医(指導医を含む)が治療に関与
		(術者、助手、指導)した患者

	3)登録時に脳神経血管内治療施行後 30 日以上経過した患者(30
	日以内の死亡、追跡不能を含む)
	基本:登録者専門医番号、治療施設(所属、出張)、治療日、予定ま
	たは緊急
	背景:年齡、性別、発症前 mRS
研究の方法	治療:術者(指導医/専門医/非専門医)、対象疾患、実施治療法、
(使用する情報)	技術的成功、治療の合併症、合併症の転帰
	最終評価:治療 30 日後の mRS、重篤な有害事象の発生、治療との
	関連性
	個別情報:診断と治療別に設定(20項目まで)
Victory letter of the MARR	神戸市立医療センター中央市民病院 脳神経外科 坂井信幸氏と医療
資料・情報の他機関	イノベーション推進センター 河野健一氏へ症例報告書として提供す
への提供	ී
	参加医師は、症例登録票および症例報告書等を当該医療機関外に提
	供する際には、連結可能匿名化を行うために新たに被験者識別コード
	を付し、それを用いる。医療機関外の者が、被験者を特定できる情報
	(氏名・住所・電話番号など)は記載しない。
個人情報の取扱い	データセンターが医療機関へ照会する際の被験者の特定は、登録医
	師が管理する被験者識別コードまたはデータセンターが発行した登録
	番号を用いて行う。
	研究代表者が研究で得られた情報を公表する際には、被験者が特定
	できないよう十分に配慮する。
	本研究は、公益財団法人神戸医療産業都市推進機構および公益財団
本研究の資金源	法人小林財団の助成金を資金源としている。また、研究代表者と本研
(利益相反)	究が評価対象とする治療器具/薬剤の製造・販売会社との間には、開
	示すべき重要な財政上の関係はない。
	神戸市立医療センター中央市民病院 臨床研究推進センター
お問い合わせ先	〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町 2-2
	TEL 078-302-4448 FAX 078-302-4604

	担当者:坂井 千秋
備考	